

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会 議 名 学校運営協議会（第2回）

2 開催日時 令和3年12月9日（木）14：30～17：30

3 開催場所 関高等学校 彩雲館1階研修室

4 参 加 者	会 長	大野 正博	朝日大学法学部 教授
	副 会 長	福田 恵介	福田刃物工業株式会社 取締役
	委 員	平田 久美子	平田建設株式会社 取締役
		森 小百合	関市 健康福祉部長（ご欠席）
		神谷 泰久	関高等学校同窓会 副会長
		上村 秀史	関高等学校 P T A会長（ご欠席）
学 校 側	林 雅浩	校長	
	高田 幸世	教頭	
	小林 竜二郎	教頭	
	寺倉 新一	事務部長	
	川原 正史	教務主任	
	五島 興	生徒指導副部長	
	片桐 良子	進路指導主事	
	林 直樹	研究推進部長	
	國枝 英俊	特別活動部長	
	岩田 拓弥	教務部（記録）	

5 会議の概要（協議事項）

【協議1】学校評価の結果について

（1）学校評価の集計結果の分析

⇒生徒アンケートについては、肯定的な回答が多い。保護者アンケートについては概ね肯定的な回答が多いが、一部の質問で否定的な回答や「不明」の回答が増加している。

（2）意見交流

意見1： 概ね評価は高いことが分かった。今後、初等・中等教育において、知識偏重とならず「関心」から「知識」を与えるという教育改革が求められる。

反転授業（例えば、オンラインでの自宅学習を受け、授業はディスカッション中心）をどの程度取り入れているのか。

⇒現在、反転授業を含めて授業改善に取り組んでいるところである。

意見2： 生徒には楽しい人生を歩んでほしい。そのために、自分で考え自分で行動する方が、指示待ちで言われたことを行うよりよい。その点で、関高校の方向性には概ね賛成である。

企業においても、自分で考えて自分で行動する人材を求めている。高校教育のなかでは主体性を大切にしてほしい。アウトプットありきのインプットが重要である。

意見3： 生徒と企業・社会人がかかわる機会が増えている。進学校においても、社会人とかかわることが大切である。企業が企画する体験学習に本校の生徒が4名参加してくれた。企業とのやりとりのなかで、社会人としてのマナーを学ぶことができる。

いじめや体罰に関して否定的な回答があることについては、校内で検討しできるだけ0に近づけてほしい。

意見4： 施設設備への満足度を問う質問に対して否定的な回答もみられたことについては、ハード面のみならず精神面の課題もあるのではないかと。

現在「不登校・引きこもり」が社会問題となっているが、コロナ禍の中における生徒の窮屈さを懸念している。

【協議2】スクール・ポリシー策定について

(1) 全体説明

⇒ 第1回学校運営協議会での意見を参考にしながら、本校職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、検討を重ね、スクール・ポリシーの案を作成した。本校の教育目標を「課題発見・課題解決能力」を重視することとし、カリキュラム・ポリシーを、本校が現在継続的に取り組んでいる4つの柱(Study hard! Work hard! Be polite! Be global!)とした。

(2) 本校の現状について

教務部： 本校は、リーダーの育成を目指す学校である。歴史や伝統・地域貢献や国際貢献・多様化の3つが教育の支柱となっている。課題解決・課題探究を重視している。また、単位制による多様な選択を可能にしている。

生徒指導： 様々な体験からの学びを推進し、豊かな人間性を育んでいる。MSリーダーズの活動、警察署や交通安全協会との連携による様々な取り組みを、自分の普段の生活とも結びつけることが重要である。

進路指導： 大学受験に向けての取組が人生を変えることを伝えている。研究推進部との連携による進路指導を進めている。社会人との関わりをもつため、様々な職業に関する講演会やセミナーを実施している。

特別活動： コロナ禍での学校行事の実施については、生徒の安全を第一に考えた。制限があるなかでの体育祭・文化祭は生徒がよく工夫し考えて動くことができた。運動系・文化系ともに全国レベルの部活動も多い。部活動は強制加入ではないが多くの生徒が加入しており、コロナ禍での制限も多い中、それぞれ一生懸命取り組んでいる。部員が中心となって考える活動をしている。生徒会活動は、自分たちで考えて活動を企画する生徒会となっている。

研究推進： 探究活動では教科指導に比べて反転授業は進んでいる。生徒の自発的な活動が、企業の目に留まり地域のプロジェクトとなった事例があった。地域の施設を活用して、探究活動の成果を発表している。

(3) 意見交流

意見1： 公共という新科目は、反転授業の実践に適している。

単位制のモデルコースについて、途中で変更ができるカリキュラムも検討する必要がある。科目ごとにカリキュラム・ポリシーとの関連性が要求される。社会に出たときに活用できる力を見る、「総合型選抜」に対応できる教育実践が必要である。問題解決型能力・発想力を育てることが重要である。

今まで以上に人間性が重要視される。教科と人間性を連動させることが大切である。

意見2： 教員も生徒も頑張りすぎて疲弊しているのではないかと。企業目線での社会が求める人材は「基礎学力」をもった上での「つきぬけたアイデアを出す力(創造力)」「コミュニケーション力」をもつ人材である。様々なものに手を出しすぎず、本質的なことに絞って考えることも大切なのではないかと。

意見3： 課題が壮大すぎて、生徒との距離感を感じる。

大学生が何をしているのかが周知されないまま、大学がゴールになっていないか。企業主催イベントでのアンケートでは「大学生の声を聞いたことがとても良かった。」という意見があ

った。現役の大学生の話聞く機会をとり、進路に対するミスマッチを防ぎたい。

意見4： 教員の姿勢は、今も昔も変わらないものである。「進取」「至誠」「錬磨」という3つの校訓の精神を生徒と教員がともに培っていく姿勢であってほしい。そして、学生生活のなかで感動する体験を味わってもらいたい。

意見5： アドミッション・ポリシーの一つに、「卒業後は大学等に進み、より深く学びたいと考えている生徒」とあるが、学んだことが働くことや社会貢献につながることを意識する一文があるとよい。

【協議3】県立学校体育施設開放について

⇒本校の現状において、体育施設を開放することの問題点として、次の2点があげられる。

1. 部活動での利用を優先することで、開放できる時間帯が大きく制限される。
2. 正門の施錠について、セキュリティ上の問題がある。

以上の理由により、開放の可能性については、今後の検討事項となった。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会において、学校評価についての協議、「スクール・ポリシー（案）」について意見交流ができた。「学校評価」については、今後の学校経営に生かし、「スクール・ポリシー（案）」については、再度プロジェクトチームで検討し、第3回の学校運営委員会で承認を得る予定である。学校開放については、今後の検討事項となった。